

6 荒川洪水新ハザードマップで大麻生地区の浸水予想を知る

荒川洪水新ハザードマップでは、「1000年に一度の大雨」で水害が発生した場合の浸水想定図を示しています。この地図は、あくまでも想定図であるため、浸水が予想されていない地域でも状況により浸水する場合がありますので、注意してください。大麻生地区周辺の想定図を別頁に示します。

なお、浸水地域は、氾濫から8時間程度を経過した状況を示しています。

- ①大麻生地区周辺では、川本の明戸地区とひろせ野鳥の森駅付近での洪水が表示されています。
- ②川本の明戸地区からの洪水では、川原明戸から武体、西川原、上川原の各々一部が浸水対象地域となります。
- ③ひろせ野鳥の森駅付近の洪水では、広瀬の大部分が浸水対象地域となります。
- ④荒川大麻生陸閘（土手の切り通し）は、「警戒レベル3」で市の職員が閉鎖をします。よって、水が浸水する心配は少なくなります。

7 自治会（自主防災会）での避難準備体制を図る

自治会（自主防災会）では、日頃の防災活動や避難訓練を通して、避難に向けた準備体制の充実を図りましょう。取組例を示します。

- ・班内で防災担当者を決め、連絡にあたる。
- ・避難訓練で班の連絡網を実際に使用する。
- ・事前に、班員全員の避難予定先を書き出してもらう。
- ・班内で要支援者の存在を明らかにし、複数の支援体制を構築する。
- ・大麻生小学校、中学校、熊谷商業高校で避難訓練を実施し、施設利用上の周知を図る。
- ・災害時に備え、自治会役員をはじめボランティアで協力できる人材を確保する。

おわりに

令和元年10月に上陸した台風19号では、大麻生地区に初めての避難指示が発令され、日頃の自主防災活動や避難訓練の重要性を痛感しました。

万が一の自然災害に直面した際には、日頃からの適切な情報収集と準備、そして避難訓練の体験が役立ちます。熊谷市から広報される各種情報、新ハザードマップ、各自治会が行う避難訓練への参加、班ごとの緊急連絡網の活用、要支援者への日頃からの支援などを総合的に活用して、一人の犠牲者も出さない自主防災や避難の取組を進めたいものです。